



### 本園のご案内

エリア	4月1日～9月30日	10月1日～3月31日
借楽園本園	午前6時～午後7時	午前7時～午後6時
好文学亭	午前9時～午後5時	午前9時～午後4時30分

※12月29日～12月31日は好文学亭が休館となります。

※開園から午前9:00までは無料 ※(好文学亭)梅まつり期間は原則午後5時まで

※借楽園(本園)・歴史館エリアは、犬等ペットを連れての入園はできません。

### 入園料 借楽園本園

個人	大人 / 300円
	小人・シルバー / 150円
団体	大人 / 230円
	小人 / 120円

※団体は20名以上

※小人は小中学生

※シルバーは70歳以上



- ・常磐自動車道…水戸IC(50号バイパス経由) / 約20分
- ・北関東自動車道…茨城東IC・水戸南IC / 約20分
- ・バス…常磐線水戸駅(北口バス乗り場④) / 約20分
- 表門④「歴史館・借楽園入口」下車 / 徒歩6、7分
- 東門④「借楽園東門」「借楽園前」下車 / 徒歩2、3分
- ⑥「借楽園」下車 / 徒歩5分

## 借楽園ガイドマップ KAIRAKUEN GUIDEMAP



ガイドマップ



JAPAN HERITAGE  
日本遺産

借楽園、弘道園をはじめとする水戸市を中心とする水戸市域は、江戸時代を通じて日本の教育の中心地として、平成27年に「日本遺産」に認定されました。

借楽園は、金沢の兼六園、岡山の後楽園と並ぶ「日本三名園」のひとつで、天保13年(1842年)に水戸藩第九代藩主徳川斉昭が領内の民と偕に楽しむ場にしたいと願い創設しました。

園内には約100品種3,000本の梅が植えられており、早春には多くの観光客で賑わいます。借楽園は梅の名所として有名ですが、他にも四季折々の見所があり、春には桜、初夏には深紅のキリシマツツジ、真夏には緑豊かな孟宗竹林と大杉森、秋には可憐な萩の花やモミジが見られます。好文学亭の三階茶寮や仙奕台から眼下に広がる千波湖を望む景観は絶景です。

### 借楽園公園センター

〒310-0912 水戸市見川1-1251

TEL.029-244-5454 FAX.029-244-5866

好文学(料金所) TEL.029-221-6570 見晴亭(売店) TEL.029-306-8911

# 偕楽園の歩き方

～表門ルート 陰から陽へ～

斉昭の趣意を感じながら、「陰」と「陽」の世界の変化を楽しむことができる表門から入るルート(→)がおすすです。

表門から一の木戸を抜けると、孟宗竹林、大杉森、クマザサが茂る幽遠閑寂な「陰」の世界が広がります。散策路を崖下の方へ降りると清冽な吐玉泉があります。

好文亭に至り、三階の楽寿楼に上ると、梅林や広場、千波湖が一望できる「陽」の世界が広がります。そして、芝前門を抜けると梅林、見晴広場へ続きます。



③吐玉泉



④好文亭

斉昭自らが設計したもので、各所に創意工夫と洒脱さを感じさせます。斉昭は、ここに文人墨客や家臣、領内の人々を集めて詩歌や慰安会を催しました。



①表門

偕楽園の正門に相当する門で、松材が多く使用され松煙色(黒色)となっているため、黒門ともいわれています。



②孟宗竹林



偕楽園駅(臨時駅) Kairakuen sta. (Temporary sta.)

偕楽橋 Kairaku bridge